

エコアクション21 環境活動レポート

平成22年度
(平成22年1月1日～12月31日)

平成23年1月27日
作成：谷川 義行

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

西部ビル管理株式会社 代表取締役 谷川 義行

(2) 所在地

福岡県北九州市戸畑区幸町 1 番 19 号

(3) 環境責任者指名及び担当者連絡先

責任者	代表取締役	谷川 義行	TEL 093-881-5746
担当者	取締役業務部長	谷川 広行	TEL 093-881-5746

(4) 事業内容

- ・清掃管理業務(日常清掃、定期清掃、臨時清掃、他清掃一般)
- ・設備管理業務(電気、冷暖房空調、給排水設備の操作及び保守管理)
- ・保安警備業務(建物警備、駐車場管理)
- ・環境衛生管理業務(空気環境測定、飲料水の水質検査)
- ・貯水槽清掃業務
- ・衛生害虫駆除業務
- ・受付・案内・電話交換業務
- ・特定労働者派遣業務

(5) 事業規模

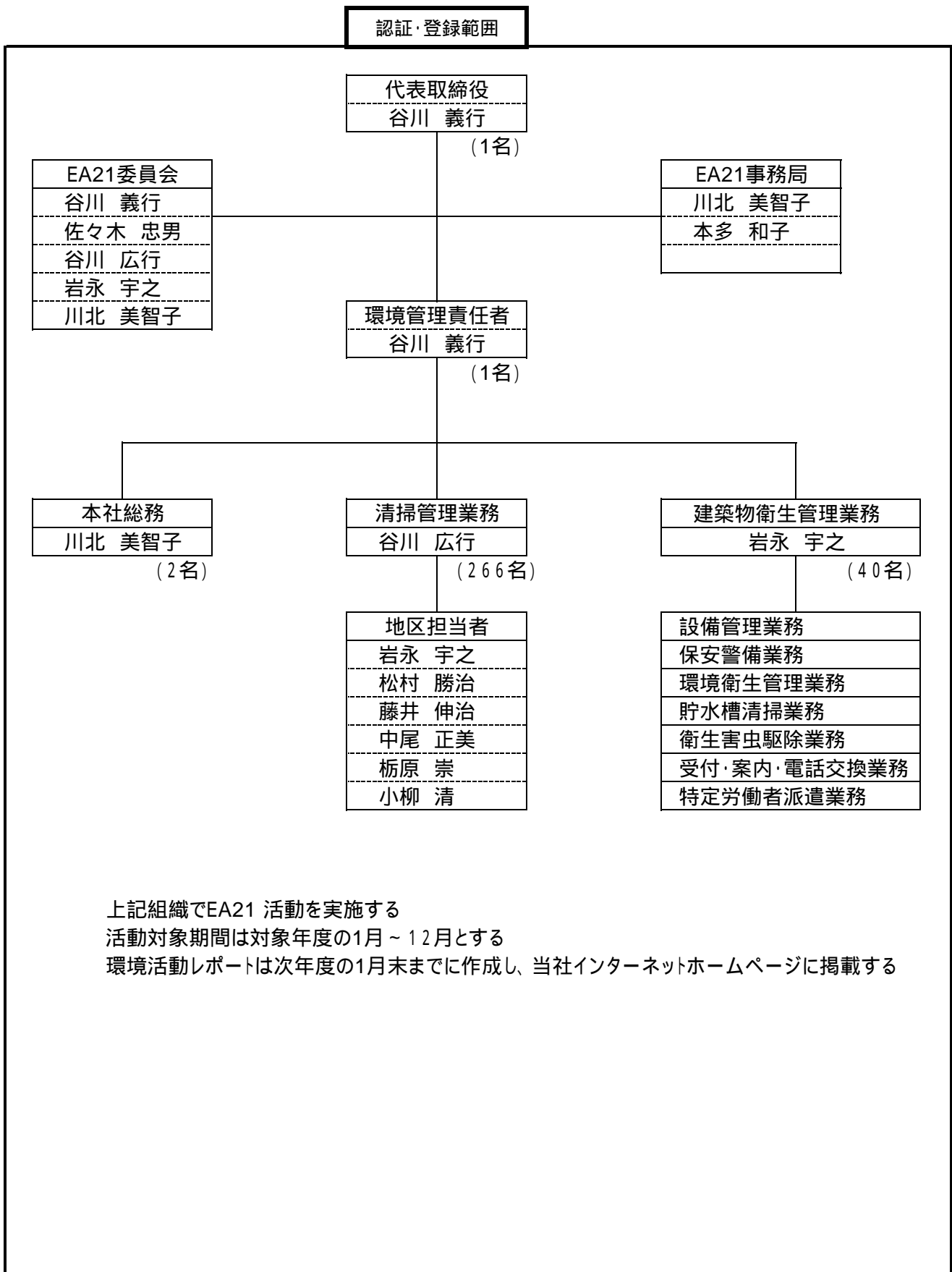
- | | |
|--------|------------------------------|
| ・設 立 | 昭和39年11月17日 |
| ・資 本 金 | 3000万円 |
| ・従業員数 | 310名(内、本社総務及び清掃管理業務従業員 270名) |
| ・事業年度 | 4月1日～3月31日 |
| ・年 商 | 62000万円(H21.4～H22.3) |

(6) EA21の環境活動 登録範囲の事業

H21年度までは、当社が直接的に管理することのできる「清掃管理業務」をEA21の環境活動 登録範囲の事業としていたが、平成22年度からはEA21ガイドライン2009年度版に沿って、間接的にはあるがEA21の環境活動の影響を及ぼすことができる、「設備管理業務」・「保安警備業務」・「環境衛生管理業務」・「貯水槽清掃業務」・「衛生害虫駆除業務」・「受付案内電話交換業務」・「特定労働者派遣業務」を加え全組織・全活動を対象として取組を行います。

登録範囲の拡大した設備管理業務等の従業員に対しては、社内報・掲示物等にて、啓蒙教育を行うと共に、お客様や関連業者等の第三者の方々にも、EA21の趣旨をご理解いただきご協力・ご参加をお願いし、EA21の輪を少しでも広げられるように働きかけをお願いした。

2. 組織図及び認証・登録範囲(当社の認証・登録範囲は以下のとおり)



西部ビル管理株式会社

環境方針

[基本理念]

地球環境問題が世界的に懸念されている今日、この問題に前向きに取り組むことは重大なことです。西部ビル管理株式会社は、ビルメンテナンス業を通して、環境負荷の低減に積極的に取り組みます。そのため、環境負荷を低減する環境経営システムを構築すると共に、これの継続的な活動を通して、社会的責任を果たします。

[行動指針]

環境経営システムを構築・運用し、環境関連法規制を遵守しながら、環境負荷の低減に積極的に取り組みます。

そのために、以下の行動指針を定めると共に、環境目標及び活動計画を定め、かつ定期的な見直しを実施しながら、継続性のある活動を展開します。

- 1. 燃料、電力の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減をします。**
 - ・エコドライブを実施して社用車の燃料使用量を低減します。
 - ・節電を励行します。
- 2. 廃棄物の削減をします。**
 - ・分別を徹底してリサイクル率を向上します
 - ・用紙の、両面コピー・裏面利用コピー、コピー時のミスコピー防止等を徹底してコピー用紙の削減を図ります
- 3. 水使用量を削減します。**
 - ・節水に努め、水使用量を削減します。
- 4. 化学物質の使用を削減します。**
 - ・清掃業務に伴い使用する、洗剤の適正希釈倍率を実施して使用量を削減します。
- 5. 事業活動に関連する環境関連法規を遵守します。**
- 6. 省資源、グリーン購入を図ります。**
 - ・コピー用紙等の再生紙への転換を進めます。
 - ・エコマーク商品を優先的に購入します。
- 7. この、環境方針は社員全員に周知します。**
 - ・当社は労務サービスであり、そこでの環境負荷の低減・環境保全は、従事する社員の行動如何である。
 - ・このため研修や教育を行うことにより、環境負荷の低減・環境保全に向けた意識の向上に努めます。
- 8. 地域社会とのコミュニケーションを図り、地域の環境保全に努めます。**

平成21年8月10日
西部ビル管理株式会社
代表取締役 谷川 義行

作成年月日	責任者	作成者
平成22年12月25日	谷川義行	谷川義行

4. 環 境 目 標

環境目標		単位	平成18年～平成20年 (基準年度 3ヶ年平均)	対象年度目標 (平成23年度)	平成23年度目標	平成24年度目標	平成25年度目標
1	二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂ / 百万円	68.99	66.92 以下 (3%)	66.92 以下 (3%)	66.23 以下 (4%)	65.54 以下 (5%)
1-1	電気使用量	KWH/ 百万円	32.16	31.20 以下 (3%)	31.20 以下 (3%)	30.87 以下 (4%)	30.55 以下 (5%)
1-2	ガソリン使用量	L / 百万円	20.21	19.60 以下 (3%)	19.60 以下 (3%)	19.40 以下 (4%)	19.20 以下 (5%)
1-3	軽油使用量	L / 百万円	3.78	3.67 以下 (3%)	3.67 以下 (3%)	3.63 以下 (4%)	3.59 以下 (5%)
2	廃棄物等排出量	t / 百万円	0.002	0.002 以下 (3%)	0.002 以下 (3%)	0.002 以下 (4%)	0.002 以下 (5%)
3	総排出量(給水量)	m ³ / 百万円	0.396	0.384 以下 (3%)	0.384 以下 (3%)	0.380 以下 (4%)	0.376 以下 (5%)
4	化学物質排出量	t / 百万円	0.012	0.012 以下 (3%)	0.012 以下 (3%)	0.012 以下 (4%)	0.011 以下 (5%)
5	グリーン購入の推進 (総品目数)	品目総数	1	3 以上 (300%)	3 以上 (300%)	4 以上 (400%)	5 以上 (500%)

作成年月日	作成者	責任者	承認者
平成22年12月25日	谷川 広行	谷川 義行	谷川 義行

平成23年度 環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の3%削減				平成23年度活動計画			
取組目標	活動項目	責任者	平成23年度活動計画				
			1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
1 電気使用量の3%削減	1 エアコン設定温度を定める(冷房28°C暖房20°C)		← 暖房 →		← 冷房 →	← 暖房 →	
	2 昼休みの消灯		←	実行	→	→	
	3 残業時の不要な照明の消灯		←	〃	→	→	
	4 長時間席を離れる時の、パソコンの電源OFF		←	〃	→	→	
	5 不要電力消費抑制(不要な場合は機械を止める運動)		←	〃	→	→	
2 ガソリン使用料の3%削減	1 省エネドライブ,アイドリングストップの励行		←	実行	→	→	
	2 管理現場移動時の、効率的な移動(相乗りの励行)		←	〃	→	→	
	3 車両の燃費管理を行う		←	〃	→	→	
3 軽油使用料の3%削減	1 省エネドライブ,アイドリングストップの励行		←	実行	→	→	
	2 管理現場移動時の、効率的な移動(相乗りの励行)		←	〃	→	→	
	3 車両の燃費管理を行う		←	〃	→	→	

2. 廃棄物排出量の3%削減

取組目標	活動項目	責任者	平成23年度活動計画			
			1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
1 排出ごみ袋の3%削減	1 分別を徹底してリサイクル率を向上する		←	実行	→	
2 コピー用紙の3%削減	1 複数ページにわたるコピーは、原則両面コピーとする		←	"	→	
	2 社内資料は、できるかぎり裏面コピーとする		←	"	→	
	3 コピー機使用時は、枚数・拡大・縮小等の誤りが無い様 使用前にコピー機の設定を確認する		←	"	→	

3. 総排水量の3%削減

1 水使用量の3%削減	1 節水活動の励行		←	実行	→	
	2 水を出しっぱなしにしない		←	"	→	
	3 節水コマの設置検討と導入		←	"	→	

4. 化学物質使用量の3%削減

1 洗剤使用量の3%削減	1 使用洗剤の適正希釈倍率の実施		←	実行	→	
	2 その日使用する量を予測して、希釈洗剤を作る		←	"	→	

5. グリーン購入の推進

1 再生紙使用・エコマーク商品 購入の推進300%増加 (総品目数)	1 コピー用紙等の再生紙への転換		←	実行	→	
	2 エコマーク商品の優先的な購入		←	"	→	

6. 環境目標の実績

・平成22年1月～12月の期間の目的に於ける実績は以下の通りであった。

項目	単位	基準年度 平成18年 ～20年度	平成22年分		目標達成 の判定
			目標	実績	
二酸化炭素総排出量	Kg-CO ₂	41,004		33,626	—
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO ₂ /百万円	68.99	67.61 以下	54.24	
電気使用量の削減	KWH/百万円	32.16	31.52 以下	27.70	
ガソリン使用量の削減	L/百万円	20.21	19.81 以下	13.95	
軽油使用量の削減	L/百万円	3.78	3.70 以下	4.35	×
産業物総排出量	t	1.00		0.81	—
廃棄物の排出量削減	t/百万円	0.002	0.002 以下	0.0013	
排水総排出量	m ³	235.00		210.00	—
排水量の削減	m ³ /百万円	0.396	0.388 以下	0.339	
化学物質移動量の削減	t/百万円	0.012	0.012 以下	0.005	
グリーン購入の推進	品目総数	1	3 以上	3	

二酸化炭素排出量算定にもちいる購入電力排出係数は0.374Kg-CO₂/KWH(九州電力)とする

7. 環境活動の取組結果の評価及び次年度の取組内容

7-1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

- ・電気使用量削減の励行を行い、目標を達成できた。
- ・特に、今後もエアコン温度設定等の計画を実行する

(2) ガソリン使用量の削減

- ・ガソリンの対象台数が減ったこともあり、目標を達成できた。
- ・省エネドライブはかなり実行出来ていると思はれるが、アイドリングストップの励行は徹底されていない。今後徹底させる。

(3) 軽油の使用量の削減

- ・使用車両をガソリン車から軽油車に買い替えた、この為軽油使用量が多くなっている
- ・軽油使用量は達成されていないが、ガソリン使用料と合わせると総使用数量は達成されている
- ・基準年度の環境目標設定時と比べ、車両の変更があったので、次年度はガソリン使用料・軽油使用量の目標値変更を行う必要がある

7-2. 廃棄物(事業系一般廃棄物)の排出量削減

(1) 排出ごみ袋の削減

- ・全体的には達成された。

(2) コピー用紙の削減

- ・22年度より、FAXの受信をネットで受け、担当者が確認をして必要分のみコピー(紙ベース)とした。

7-3. 総排水量の削減

- ・節水活動の励行を行い、目標を達成できた。

7-4. 化学物質移動量の削減

- ・全体的には達成された。
- ・今後も洗剤の削減に努める、さらに洗剤使用に際してはPRTR法対象外の商品使用を検討する

7-5. グリーン購入の推進

- ・今期事務所エアコン(2台)を省エネ機種にした
- ・今期の目標達成されたが、今後もグリーン商品への転化を図る

7-6 その他

- ・全体的には達成された。

8.環境関連法規等の順守状況の確認及び評価結果、訴訟等の有無

自己チェックした結果、環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

引き続き環境関連法規遵守の維持に努めます。

9.代表者による全体の取組状況の評価および見直しの記録

- ①環境経営システムが運用期間から1年目であり、まだ評価するには期間が短い目標に向
向かっての実施体制、行動指針、活動内容等、PDCAはうまく回っていると考えられる。
- ②今期の目標値は達成されている。
- ③但し、車両(バンタイプ3000CCクラス)をガソリン車から、ジーゼル車に買い替えた為、基準年度
と比べガソリンは減り、軽油が増える結果となっているが、両方の燃料総使用量は減り目標値は
達成されている。
- ④EA21教育、EA21書類の回覧等を行った結果、従業員全員の理解・協力は実施されている。
- ⑤環境関連法規への違反、訴訟等はない。
- ⑥外部からの苦情も無く、問題点も発生していない。
- ⑦環境方針等の変更は現状では必要性は無いと考える